

ノートルダム女大 栢田 庸

1. 被服構成学の立場から、4, 50歳代婦人の身体計測を行ない、その体型の特徴について、2, 3の考察を試みた。

2. 計測対象は、京都市および京都府綾部市在住者200名で、4, 50歳代の婦人である。計測期間は、昭和43年3月19日より同年5月25日までである。計測項目は、身長、頸椎高、右膝関節高、背肩巾、肩峰巾、胸囲、胸部横径、胸部矢状径、腰囲、腰部横径、腰部矢状径、胴囲、胴囲横径、胴囲矢状径、上肢長、下肢長の16項目で、この実測値をもとに身長に対する長径項目の示数值、周径項目間の差、及び胸部、胴部、腰部における扁平率の算出を行なった。更に16項目の身長及び胸囲に対する相関係数を算出して検討した。

3. 4, 50歳代婦人の体型は、20歳女子に比べて胴のくびれが少ない。20歳女子を基準とした、モリソンの偏差折線を描くと、長径の項目は負に、周径の項目は正に偏した。

身長及び胸囲と各部の相関は、身長と長径項目、胸囲と周径項目において高い。